

第三期 第3回次世代リーダー養成アカデミー

情報化はイノベーション 情報化はビジネスの創造

平成25年3月15日、JISAは、今期最終回となる「次世代リーダー養成アカデミー」を開講した。

本アカデミーは、JISA 人材部会・企画WG(座長:小野田祐子・TIS(株)執行役員)が、企画並びに運営を担当した。次世代を担う人材が、業界内外の有識者による計3回のテーマ別連続講演を通じて、同業他社の有望人材との情報共有ならびにコミュニケーションを形成し、自らのレベルアップが図れるように企画されており、受講者を男女同数にして、次世代リーダーとしての女性の活躍を支援する機能を併せ持っている。



最終回は、JISA 横塚裕志理事(東京海上日動システムズ(株)代表取締役社長)が講師を務めた。技術力では高い位置にある日本の情報技術が、活用力では諸外国に劣ることを問題提起し、SEによる日本の再生に向けたイノベーションを実現させるべく試みたもので、会員企業から次世代リーダー30名が受講した。

はじめに横塚氏は、「日本の情報化は遅れている ～このままでいいのか」と題して講演し、韓国の医療、同じく韓国の改札のない新幹線、オランダの農業、シンガポールの港湾などを例に示して日本の状況と比較させ、「SEが率先してイノベーションを起こし、この旧態依然とした状況を変革させなければ日本の復興はない」と訴え、受講生にいかに日本の情報化のあり方を革新させるか考えるよう促した。

グループ討議では、イノベーションの観点で世界に遅れていること、そうでもないことを探し、世界に遅れを取っている分野については、どのようにキャッチアップしていくか、を論



点として各グループで意見をまとめて発表が行われた。

講評で横塚氏は、リーダーとは、どういうものであるか、に論点を絞り、まず、「リーダーはイノベーションを起こす人であり、リーダーが増えることによって日本は栄える。今の発表を聞いていて、まるで他人事のようにであり、自分の手でイ

ノベーションを起こそうとする意識が薄いように感じられた」と評価し、続けて、「日本が世界よりも進んでいる例として発表された『おもてなし』の気持ちがどうして医療や福祉などのシステムに応用できないのか、そういったことを自らの責任で考えるのがリーダーである。誰かに追随すればいいだろうではもうダメ。日本は危機的な状況にある。日本にイノベーションを起こし、日本を救うのは、あなたたちSEであり、次世代リーダーだ！」と叱咤激励した。

閉会後には懇親会が開かれ、参加者は、所属や性別を超えたコミュニケーションネットワークを築きながら、充実した雰囲気の中で散会に至った。



女性活躍支援ミーティング アカデミー最終回に併催



JISA では 2020 年までに指導的地位(管理職、IT スキル標準レベル 5 相当以上の専門職等)の女性比率 30%を目指す「[JISA ダイバーシティ戦略](#)」を推進している。その活動の一環として、この次世代リーダー養成アカデミーは、次世代リーダーとしての女性の活躍を支援する役割を併せ持っている。



本アカデミーの最終回にあたり、小野田祐子・企画 WG 座長 (TIS(株)執行役員)を司会として「女性活躍支援ミーティング」が 挙 行 され、アカデミーの女性受講生 13 名全員、男性受講生 2 名、 企画 WG 委員などが参加した。

少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少、国際競争力の著しい低下という日本経済への逆風が、これまで日本人男性社員以外の人材の活用にあまり積極的でなかった日本の人事・雇用慣行の変革を促すための順風となりつつある。

このような状況を踏まえ、参加した女性受講生は、各自のライフワークバランスをテーマに意見を述べ合いながら、また、男性受講生の意見などを聴きながら、「人材多様化イノベーション」の実現に向けた道筋を探っていた。

(薦田)